

トークセッション

『忘却に抵抗するドイツ』著者 **岡裕人さん**をお迎えして



シリーズ第三弾

ドイツの“記憶の文化”を考える



8/5
(土)

ドイツの街を歩くと、ナチ時代の歴史を記憶する記念碑に出会います。道端や公園の片隅に、人々の日常の中に、負の記憶が溶け込んでいます。新しい記念碑が今も作られる一方で、向き合い方について議論が起きている”記憶のカタチ”もあります。

昨年、ヒトラーの『我が闘争』が出版解禁。どんな論争が巻き起こったのか・・・？
今年は、ルターの宗教改革 500 周年。反ユダヤ主義との意外な関係とは・・・？

“記憶のカタチ”そのものが、偏見や憎しみを助長するとしたら、私たちは次の世代にいかにつないでいくことができるのでしょうか。在独 28 年の歴史研究者である岡裕人さんをお迎えして、9 月に連邦議会選挙を迎えるドイツの今について、お話をお聞きしながら、教育の視点から考えてみたいと思います。

日時	2017年8月5日(土) 午後3~5時30分
会場	学習院大学 北2号館10階 大会議室 JR 山手線「目白」駅より徒歩約5分
対象	高校生以上、どなたでも 定員50名(要申込)
参加費	学生無料
申込	下記のホームページよりお申込みください http://www.npokokoro.com/20170805
主催	ドイツの記憶の文化を考える会 NPO 法人ホロコースト教育資料センター お問い合わせは、 kokoro.org@gmail.com まで



ゲスト おか ひろと 岡裕人氏

一橋大学大学院社会学研究科
修士課程修了。89年渡独し、
コンスタンツ大学大学院歴史
学科で博士号取得。ベルリンの壁崩壊を見聞
し、以後変革するドイツで歴史研究と教育に携
わってきた。現在フランクフルト日本人国際学
校事務局長。主な著書に『忘却に抵抗するドイ
ツ - 歴史教育から「記憶の文化」へ』(大月書
店)、『「ホロコーストの記憶」を歩く- 過去をみ
つめ未来へ向かう旅ガイド』(子どもの未来社)。

